

第3章 女性を取り巻く法的環境—身分法を中心に

本章では家庭における男女間の役割や地位の形成に深く影響を及ぼしている身分法を中心に文献を取り上げる。またその後、女性に対する性的抑圧などに起因する問題や犯罪に関する文献を数点紹介する。

I. 身分法と女性

ナセル期には、政治や労働、教育などの公的領域において男女の平等が法的に認められ、女性の社会進出が推進された。しかし他方、婚姻や離婚、子供の養育、扶養、相続などの主に夫婦間の私的関係を規定した身分法 (qānūn al-aḥwāl al-shakhsīya—家族法または私的関係法と訳される場合もある) は、何ら改正されず、1929年の25号改正法(1920年の25号法を改正)が適用されているままであった。したがって、多くの研究者は、この点からナセルの女性に対する保守的傾向をみてとり、女性の地位向上の足枷が根本的に残ったままであったと批判的にみている。エジプトの法律において男女の不平等が顕著に残っているのは、おそらくこの身分法のみであろう。

エジプトの身分法は、エジプトにおけるイスラーム教の主流法学派であるハナフィー派の解釈を基盤にして、1920年に25号法として制定されたのが最初である。この法は、エジプトの法体系のなかでおそらく唯一、全面的にイスラーム法(キリスト教徒には彼ら自身の宗教協団体が定めた別の規定がある)が適用されたものである。

イスラーム法との関連で身分法を論じた文献には、『中東における法律：イスラーム法の起源と発展：第6章家族法』(ハッドゥーリーとレ

イベニー [M. Khadduri & H. J. Leibeny] 編) (E158)がある。同書には禁止されるべき結婚相手、女性が夫を選ぶ自由、婚姻契約(mahr—婚姻の際に夫が妻に支払う契約金で、通常婚姻契約に明記され、半額が前納され、離婚する場合には残額が支払われる)、夫の妻に対する扶養費、妻の服従、離婚、子供に対する権利、遺産相続などについてのイスラーム4大主流法学派の見解が説明されており、エジプトの身分法の背景を知るうえで参考になる。

アル・ノワイヒー(M. al-Nowaihi)の『シャリーアの進歩的解釈の範囲内における身分法の変遷』(E166)は、リベラリストの立場から身分法について考察したもので、一夫多妻制を禁止するチュニジアや、一夫多妻や一方的な離婚について厳しい制約を与えるイラク、南イエメン(当時)、ヨルダン、モロッコ、シリアの例をあげて、イスラーム法における身分法の解釈の相違を説明するものである。そのうえで著者は、エジプトの25号法は、封建・資本主義と帝国主義時代に成立した法体系に支配されたものと見なしている。度重なる身分法改正の試みは、保守層やウラマー(イスラーム学者・宗教指導者層)の反対や1967年戦争の敗北による政治状況などによって常に阻まれてきたという。

エジプトの身分法25号については、ヒルミー('A. Ḥilmī)の『エジプト女性と実定法』(A197)に、その条文が掲載されている。この法は、夫の妻に対する扶養の義務や離婚手続き、夫の離婚要求において無効となる事由、妻による離婚訴訟や子供の扶養費請求の権利の事由、バイト・アル・ターア(bayt al-ṭā'a—服従の家、夫の許可なく婚家を出ることが不可能で、夫は強制的

に妻を連れ戻すことができる。)による扶養費の停止手続きやバイト・アル・ターアの例外事由、イッダ('idda-3回の月経を待つ期間で、離婚した妻はこの間には再婚できない)期間の夫が妻を扶養する義務、子供の養育権、などについて規定する。特に夫の妻に対する扶養義務や妻の保護に関する規定が多いが、しかし言い換えると、法律に規定されていないことについてはすべて男性に権限があり、夫には複婚や一方的な離婚(タラク離婚)の権利、強制的に妻を連れ戻す権利を持っている。また一方、妻は夫に対して服従の義務があり、訴訟によってのみしか離婚や子供の養育権の請求(女子が9才、男子が7才になるまで母親が養育可能であり、その後は父親が養育権を持つ)が不可能であるというような、極めて女性の権利を制限した内容であったことがわかる。

サグト期になって、ようやく身分法の改正(1979年44号法)が50年ぶりに実現し、離婚や子供の養育権に関して妻の権利が改善された。この44号法成立には、サグト大統領夫人であるジハーン・サグトの強い影響があったとされ、別名「ジハーン法」として知られている。以下に紹介する文献からわかるようにこの法の主な改正点は、次のとおりである。

- (1) 離婚は公証人または夫婦関係が両者の了解のもとに終結したとする夫の承認書によってのみ公式に登録される。
- (2) たとえ女性が婚姻契約において明文化しなくとも、夫の第2の結婚は最初の妻の苦痛となり離婚の根拠となる。つまり、これを理由に離婚請求ができる。
- (3) 妻は離婚後、子供の養育のために夫の住居に留まる権利がある(男子の場合15才、女子の場合は結婚まで)。
- (4) もし継続的な結婚生活が絶えられない苦痛を引き起こすならば、妻は別居を申し出る

ことができる。

(5) 妻は扶養費を請求できるが、それが停止された場合、離婚する権利がある。

(6) 妻の同意なしに、または妻に明確な原因なしに離婚が成立した場合には、妻は法的な扶養費の他に慰謝料を請求する権利がある。これによって、夫による一方的な離婚や一夫多妻制が制限され、また、妻に対しては離婚後の子供の養育権や慰謝料の請求が認められた。特に子供がいる場合、離婚後も夫の住居に留まることができる権利は、当時の都市の住宅問題を反映したものである。

さて、多くのエジプト人研究者は、当時の身分法改正に至る経緯や過去の改正の試みについて論じている。たとえば、ハリーム(I. Halim)の『4人妻と1人の男性』(A198)は、改正反対派の意見や改正案の内容が保守的に変更を余儀なくされた事実などを折り混ぜて詳細に紹介したものである。彼女は、左派フェミニストの立場から、エジプト家庭における女性の地位の不安定さと低さの原因として、一夫多妻制やエジプトの離婚率の高さ、結婚回数の多さを指摘し、その主要因となっていた旧来の身分法を厳しく批判している。またこの文献は、いくつかの興味深い事実をあげて男性に支配され、抑圧されている女性の現状を報告するものである。

同様に、ムハンマド(A. Muḥammad)は、『エジプトの女性、過去と現代において』(A211)の『5章エジプト女性と身分』においてエジプトの離婚率の高さや身分法における女性の権利を歴史的に説明し、44号法の成立経緯やその特徴について詳細に述べる。なお、この文献の巻末には44号法の条文が掲載されている。

しかし、さまざまな生みの苦しみを経て改正された44号身分法は、ムバーラク大統領体制下の1985年5月4日に無効となってしまった。この法は、サグト前大統領が大統領特権によって共

和国令として国会休会中に成立させたため、最高憲法裁判所がこの法の立法手続きに対して違憲判決を下したのである。この時点で再び1929年の25号法に戻ってしまった。

この日からまた新たに、フェミニストたちの身分法改正に向けた活動が始まったが、わずか1カ月足らずのうちに新たな身分法の改正(100号法)が実現している。この問題について、ヒジャーブ(N. Hijab)の『ウーマンパワー』(E153)には、当時の新聞におけるフェミニストたちの論調が紹介されている。著者は、エジプト政府の早急な対応によって100号法が議会を通過したことを評価しながらも、政府が「国連婦人の10年」のナイロビ会議においてエジプトの近代化の意志を示す思惑があったという皮肉に触れている。なお、この文献には主なアラブ諸国の身分法を比較した表が掲載されており、有益である。

同様に、ナッジャーール(F. M. Najjar)の『エジプトの身分法』(E163)は、まず1920年25号法と1929年の改正など歴史的な背景を詳しく説明したうえで、近年の44号法や100号法の成立過程について述べたものである。特に44号法の成立時におけるイスラーム原理主義者とフェミニストのこの法律の成立に対する反応を紹介している点で興味深い。たとえば著名なジャーナリストであるアミーナ・サイード(Amina al-Sa'īd)は、最も重要な一夫多妻制が禁止されていない点に対して不満を表明している。一方、ムスリム同胞団の一員であるムハンマド・アル・サンマン(Muhammad A. al-Samman)は、この法律の手続き上の正当性を問題にして強い不満を表わしていたことがわかる。また、ナッジャーールは、身分法に対するイスラーム保守派によるシャリーアの解釈との論争についても説明している。さらに100号法については、ヒジャーブと同様に、基本的に44号法を踏襲したものと

見なすものである。

また、アジーザ・フサイン('Azīza Hussayn)ら左派フェミニストによって構成されるエジプト女性問題グループがまとめた『エジプト女性の法的権利；理論と適用において』(A210)には、身分法全体が簡潔にまとめられており便利である。特に同書は、身分法に関する簡単なアンケート調査の結果を報告している。これは、既婚および未婚女性117人を調査したもので、主な調査結果と著者らの分析は以下のとおりである。なお、このうち高等教育を受けた女性や職を持った女性12人が身分法の存在を知らなかったため、回答を辞退しているという。

- (1) 回答者全体の50%以上の女性が、婚姻契約において条件を明記する権利について知っているが、しかしほとんどの女性は、社会的な慣例からこの条件を明記することが許されていない。
- (2) 離婚する場合には、77%の女性は、裁判に訴えることを選び、ただひとりの女性が自分の家族や親戚の介入を希望した。近年まで女性は、夫婦間のあらゆる問題の解決において彼女の同族(アーイラ[‘āila])に保護を求めるのが通例であった。この結果は、家族関係の大きな変化を示すもので、家族的な絆に亀裂が生じている現れである。
- (3) 回答者の86%が婚姻契約のなかに明記したかった条件として、結婚後の労働の権利をあげている。

結論として同書は、非識字者ばかりでなく多くの女性が法律の知識に乏しく、法的な権利や義務を正しく遂行していない実状を指摘し、法律の普及の重要性と、また離婚訴訟の手続きの迅速化や簡素化の必要性を訴えている。さらに、離婚の際の子供の養育費や慰謝料などの獲得においては、彼女のアーイラの忠告や仲裁が重要な役割を果たす点を認めるものである。同書の

アンケート調査は、非常に簡単なものであるが、この種の調査は他にみられないため興味深い。

エジプトの離婚について論じた文献では、ファフミー(H. Fahmy)の『エジプトの離婚に関する身分法』(E148)および『エジプトにおける離婚』(E149)がある。文献(E148)は、特に100号法の成立過程における多くの論争が住宅難や低所得、高出生率のような最近の最も深刻な問題に光を当てたことから、この身分法改正が政治的、イデオロギー的な問題であったと見なしている。この観点から著者は、特に離婚問題がエジプト社会を分析する有効な手段であるとみて、離婚訴訟における法の適用について調査している点が興味深い。

また、アフィーフィ(I. Afifi)の『離婚の現象』(A207)は、文化人類学者としてイスラームと伝統的社会によって影響を受けた離婚の現象とその影響について論じたものである。著者は、イスラームやユダヤ教、キリスト教の多様な離婚や復縁についての形態や手続き方法を説明した後、夫婦の年齢差や夫の職業、離婚前の結婚生活の期間、結婚前の両者の状況などに関する実態調査の結果を報告して、離婚の主な要因として家庭生活への他人の干渉や意見の不一致、一夫多妻、などをあげている。

ところで、結婚あるいは家族制度と関連させて女性の財産の獲得について考察したものに、パストナー(C. McC. Pastner)の『イスラームにおける財産への接近と女性の地位』(E167)がある。著者は、イスラーム法では女性の財産獲得は、結婚によるマハルの受取りとイスラーム法に則った遺産相続が主要なものであるとする。しかし、部族によって相違はあるが、この財産の権利ですらも、女性は、一族による保護の代わりに彼女の財産管理を放棄する傾向が一般的である。著者は、女性が労働参加するにつれてこの傾向は薄れて、女性も経済的安定のために

財産を所有する傾向が増えていることに注目する。この要因について著者は、核家族制によって女性の地位が高まったという見方よりも、むしろ労働参加による女性の意識の向上を強調している。

一般に、身分法に関する研究は、法律上の男女不平等や法の改正にもつばら関心を向ける傾向が強いかもしれない。このような傾向に批判を投じているのが、モフセン(S. K. Mohsen)の『エジプト女性：近代化と伝統の間で』(E160)のなかにみられる。彼女は、女性解放を支援する改革者たちが法律の改正にのみ関心を集中させ、伝統的な価値観が支配した文化的な実態を無視しがちな点を指摘する。彼女によると、男性の保守主義は、彼らの優位な地位を維持する必要から来るものであるが、また一方、女性の保守的な態度は、部分的に彼女たちが未経験の文化的領域において競争しなければならぬ恐怖心に起因すると説明する。この論拠として彼女は、身分法や教育、政治的・法的改正などを管轄している裁判について考察するものである。

II. 女性と犯罪

サアダーウィーは、『イブの隠れた顔』(E170)や、『女性と性』(A201)において女性に対する性的な暴力やそれに関係した同族の犯罪、あるいは女性売春に関する数多くの事例をあげて女性に対する性的な抑圧を告発している。同文献によると、エジプトの家族社会では娘の処女性を家の名誉として重んじるため、農村だけでなく都市においてもこの種の性犯罪やそれに係わる同族間の犯罪行為が公にされることがきわめてまれであるという。たとえ訴訟に持ち込まれても犯罪は不問に付される場合が多いなど、同文献は、一族の名誉の犠牲となる女性や私生児の悲劇などを報告しており興味深い。

また、家庭内での夫の妻に対する暴力に目を

向けたものには、ザールーク(M. Zaaluk)の『家庭内暴力：エジプトにおける妻叩きの場合』(E174)がある。同文献は、9カ月間にカイロの警察に報告された50例について、担当のソーシャルワーカーの協力をもとに予備的に調査したものである。この調査によると警察に訴える女性は、主として下層の女性であるが、それ以外にもインフィターフによって急成長した新興富裕階層や大学教授、軍人、公務員、学生、弁護士を含む各層にも存在するという。その主な理由は、夫の別な女性との結婚や、それに付随した離婚問題である。

モフセン(S. Mohsen)の『エジプトにおける女性と刑事裁判』(E162)は、女性が被害者また犯罪者として刑事裁判のさまざまな段階でどのように扱われているかを考察したもので、警察官、裁判官、刑務官、女性囚人に面接して集め

たデータを基にしている。同文献によると、女性の関わる犯罪のほとんどは性犯罪に関係するため、被害者でも加害者でも家の名誉に関わる個人的な問題と見なされ、結果として女性に不利になることが多いという。しかし、もし法廷に持ち込まれた場合には、米国と違って被害者である女性に有利に働くことが多い点を指摘する。さらに現代の急激な社会変化とともに、中間層の女性が自ら金銭欲のために高級売春を行う事例もみられると述べる。

ところで、女性の解放と女性の犯罪を関連させて論じたものに、アル・マジュドゥーブ(A. al-Majdūb)の『女性と犯罪』(A209)がある。同書は、女性の解放の進展によって女性に関係した犯罪が増加したことを統計的に分析している。しかし、これは、エジプト女性について特定化した分析ではない。

<文献目録—アラビア語>

- (A194) جودة ، عبد السلام : تعدد الزوجات . الاسكندرية ، دار الشرق الأوسط للطباعة والنشر ، 1969 . 32 ص .
- (A195) الحسنى ، كمال : الزواج والاسرة فى المفهوم الكنسى . القاهرة ، مكتبة المحبة ، 1972 . 48 ص .
- (A196) الحسينى ، محمد مصطفى شحاتة : الاحوال الشخصية فى أحكام الزواج والطلاق والعدة والنفقة وحقوق الاولاد . القاهرة ، كلية الشريعة والقانون ، جامعة الأزهر ، 1979 . 186 ص .
- (A197) حلمى ، عنايات : المرأة المصرية وتشريعات العمل . (ندوة المرأة والتنمية القومية) القاهرة ، المركز الاقليمى العربى للبحوث والتوثيق فى العلوم الاجتماعية ، 1984 : ص 80—94 .
- (A198) حليم ، أسما : أربع زوجات ورجل . القاهرة ، دار الثقافة الجديدة ، 1980 . 315 ص .
- (A199) الخولى ، البهى : المرأة بين البيت والمجتمع . القاهرة ، مطابع دار الكتاب العربى ، 1953 . 148 ص .
- (A200) السعداوى ، نوال : مذكرات فى سجن النساء . القاهرة ، دار المستقبل العربى ، 1986 . 258 ص .
- (A201) السعداوى ، نوال : المرأة والجنس — الانثى هى الاصل . بيروت ، المؤسسة العربية للدراسات والنشر ، 1974 . 234 ص .
- (A202) شاكر ، أحمد محمد : نظام الطلاق فى الاسلام . القاهرة ، مكتبة النجاح ، 1970 . 144 ص .
- (A203) صموئيل ، فوزية : الشركة الزوجية . القاهرة ، دار الثقافة المسيحية ، 1973 . 46 ص .

- (A204) عبد الجواد، أنعام: حقوق المرأة المصرية بين التحديد القانوني وتحديات الواقع الاجتماعي. (ندوة المرأة والتنمية القومية) القاهرة، المركز الاقليمي العربي للبحوث والتوثيق فى العلوم الاجتماعية، 1984: ص. 22-31.
- (A205) العطار، عبد الناصر توفيق: أحكام الاسرة عند المسيحيين واليهود المصريين ومدى تطبيقها بالحكام. القاهرة، مطبعة السعادة، 1970. ص 552.
- (A206) العطار، عبد الناصر توفيق: تعدد الزوجات من النواحي الدينية والاجتماعية والقانونية. القاهرة، مجمع البحوث الاسلامية بالازهر. 1972. ص 356.
- (A207) عفيفى، الهام: ظاهرة الطلاق. المجلة الاجتماعية القومية (1/3) 14، 1977: ص. 113-144.
- (A208) فهمى، على حسن: العلاقة بين دور المرأة المصرية فى التنمية وتطور التشريعات الخاصة بالأسرة فى مصر. المجلة الاجتماعية القومية (1/3) 14، 1977: ص. 91-109.
- (A209) المجدوب، أحمد على: المرأة والجريمة. القاهرة، دار النهضة العربية، 1976. ص 271.
- (A210) مجموعة المهتمات بشئون المرأة المصرية: الحقوق القانونية للمرأة المصرية بين النظرية والتطبيق. القاهرة، 1988. ص 44.
- (A211) محمد، أحمد طه: المرأة المصرية بين الماضى والحاضر. القاهرة، مطبعة دار التاليف، 1979. ص 254.
- (A212) محمد، بلتاج: دراسات فى الاحوال الشخصية. القاهرة، مطبعة الشباب، 1980.
- (A213) محمد، محسن: الزواج سنة 2000. القاهرة، مؤسسة أخبار اليوم، 1972. ص 241.
- (A214) المدنى، محمد محمد: رأى جديد فى تعدد الزوجات. القاهرة، مطبعة مخيمر، 1958. ص 39.

- (A215) مشرقى، صموئيل: مكانة المرأة فى المسيحية . القاهرة ، لجنة مطبوعات كنيسة الله الخمسينية ، 1965 . 71 ص .
- (A216) مصر . وزارة الشؤون الاجتماعية . اللجنة القومية للمرأة : دليل التشريعات والقوانين الخاصة بالمرأة . القاهرة ، 1983 .
- (A217) معروف، ليلى: المرأة والاسرة فى قوانين الأحوال الشخصية العربية . (المؤتمر الدولى عن المرأة العربية والافريقية والمتغيرات الاجتماعية السياسية) القاهرة ، 1985 .
- (A218) المليجى، عصام: المرأة وقوانين الأحوال الشخصية . المجلة الاجتماعية القومية (2/3) 12 : 1975 : ص 201-224 .
- (A219) النواوى، عبد الرحمن حسين: الدين والمرأة . القاهرة ، مطبعة أمين عبد الرحمن ، 1916 . 40 ص .
- (A220) وافى، على عبد الواحد: بيت الطاعة وتعدد الزوجات، والطلاق فى الاسلام . القاهرة ، مؤسسة المطبوعات الحديثة ، 1960 . 114 ص .
- (A221) يوسف، حسين محمد: أختيار الزوجين فى الاسلام وآداب الخطبة . القاهرة ، دار الاعتصام ، 1979 . 103 ص .

<文献目録—欧語>

- (E136) Abu Lughod, J. & L. Amin : Egyptian marriage advertisements ; microcosm of a changing society. *Marriage and family living*, May 1961 : p. 127-136.
- (E137) Abu Zahra, M. : Family law. (*Law in the Middle East*, edited by Khadduri & Liebesny) Washington, D. C., Middle East Institute, 1955 : p. 132-178.
- (E138) Anbar, Mohammed Abdel Rehim : Le Problème du divorce en Egypte. *L'Egypte contemporaine* 32(200) Nov. 1941 : p. 783-790.
- (E139) Anderson, J. N. D. : Law reform in the Muslim world. London, Athlone Press, University of London, 1976. 235 p.
- (E140) Anderson, J. N. D.: Recent reforms in family law in the Arab world. *Zeitschrift für Vergleichende Rechtswissen* 65, 1963 : p. 1-77.
- (E141) Anderson, J. N. D.: Reforms in the law of divorce in the Muslim world. *Studia Islamica* (31) 1970 : p. 41-52.
- (E142) Anderson, J. N. D.: The role of personal statutes in social development in Islamic countries. *Comparative studies in society and history* 13(1) Jan. 1971 : p. 16-31.
- (E143) Azer, A.: Law as an instrument for social change ; an illustration from population policy. (*Law and social change in contemporary Egypt*, edited by Cynthia Nelson & K. F. Koch) Cairo, American University in Cairo Press, 1979 : p. 60-96. (Cairo papers in social science, 2(4))
- (E144) Bassiomi, Mohamed Salah : Family planning and opposing Islamic leaders ; a campaign proposal. *Population studies* 10(67) Oct./Dec. 1983 : p. 17-31.
- (E145) Booth, Marilyn : Prison, gender, praxis : women's prison memoirs in Egypt and elsewhere. *MERIP Middle East report* (149) Nov.-Dec., 1987 : p. 35-41.
- (E146) Doumato, Eleanor A.: Hearing other voices ; christian women and the coming of Islam. *International journal of Middle East studies* 23(2) May 1991 : p. 177-199.

- (E147) Esposito, John L.: Women in Muslim family law. Syracuse, Syracuse University Press, 1982. 155 p.
- (E148) Fahmi, Hoda : Divorcer en Egypte ; étude de l'application des lois du statut personnel. Cairo, CEDEJ, 1987. 163 p.
- (E149) Fahmy, Hoda : Les lois du statut personnel concernant le divorce en Egypte. Peuples méditerranéens (48/49) Jul./Dec. 1989 : p. 123-136.
- (E150) Hatem, Mervat : The enduring alliance of nationalism and patriarchy in the Muslim personal status law ; the case of modern Egypt. Feminist issues 6(1) Spring, 1986 : p. 19-44.
- (E151) Hatem, Mervat : Toward the study of the psychodynamics of mothering and gender in Egyptian families. International journal of Middle East studies 19(3) 1987 : p. 287-306.
- (E152) Hatem, Mervat : Underdevelopment, mothering and gender within the Egyptian family. Arab studies quarterly 8(1) Winter, 1986 : p. 45-61.
- (E153) Hijab, Nadia : Womanpower ; the Arab debate on women at work. Cambridge, Cambridge University Press, 1988. 176 p.
- (E154) Hill, Enid : Mahkama! ; studies in the Egyptian legal system, courts & crimes, law & society. London, Ithaca Press, 1979. 197 p.
- (E155) Hussein, Aziza : Recent amendments to Egypt's Personal Status Law. (Women and the family in the Middle East ; new voices of change, edited by E. W. Fernea) Austin, University of Texas Press, 1985 : p. 229-232.
- (E156) Hussein, Aziza : Recently approved amendments to Egypt's law on personal status. (Religion and politics in the Middle East, edited by Michael Curtis) Boulder, Westview, 1981 : p. 125-128.
- (E157) Jawad, H. A.: Women and the question of polygamy in Islam. Islamic quarterly 36(1) 1992 : p. 181-190.

- (E158) Khadduri, Majid & Herbert J. Liebesny (eds.) : Law in the Middle East, Chapter VI family law. Washington, D. C., Middle East Institute, 1955 : p. 132-178
- (E159) Mincses, Juliette : The house of obedience ; women in Arab society. London, Zed Press, 1982.
- (E160) Mohsen, S. K. : The Egyptian woman ; between modernity and tradition. (Many sister, edited by Carolyn J. Matthiasson) New York, Free Press, 1974 : p. 37-58.
- (E161) Mohsen, S. K. : The legal status of women among Awlad 'Ali. Anthropological quarterly 40, 1967 : p. 153-166.
- (E162) Mohsen, S. K. : Women and criminal justice in Egypt. (Law and Islam in the Middle East edited by Daisy Hilse Dwyer) New York, Bergin & Garvey, 1990.
- (E163) Najjar, Fauzi M. : Egypt laws of personal status. Arab studies quarterly 10(3) 1988 : p. 319-344.
- (E164) Nasir, Jamal J. : The Islamic law of personal status. London, Graham & Trotman, 1990. 358 p.
- (E165) Nasir, Jamal J. : The status of women under Islamic law and under modern Islamic legislation. London, Graham & Trotman, 1990. 151 p.
- (E166) al-Nowaihi, M. : Changing the law on personal status in Egypt within a liberal interpretation of the Shari'a. (Law and social change in Contemporary Egypt, edited by Cynthia Nelson & Klaus F. Koch) Cairo, American University of Cairo, 1979 : p. 97-115. (Cairo papers in social science 2(4))
- (E167) Pastner, Carroll McC. : Access to property and the status of women in Islam. (Women in contemporary Muslim societies, edited by Jane I. Smith) London, Bucknell University Press, 1980 : p. 146-185.
- (E168) Puri, B. : Personal law and Muslim identity. (Status of women in Islam, edited by Asghar-Ali Engineer) Delhi, Ajanta, 1987 : p. 97-110.

- (E169) al-Saadawi, Nawal : Growing up female in Egypt ; from Mudhakkirat tabiba. (Women and the family in the Middle East ; new voice of change, ed. by E. W. Fornea) Austin, University of Texas Press, 1985 : p. 111-120.
- (E170) el-Saadawi, Nawal : The hidden face of eve ; women in the Arab world. London, Zed Press, 1980. 212 p.
- (E171) al-Saadawi, Nawal : Memoirs from the women's prison, tr. by M. Booth. London, Women's Press, 1986. 197 p.
- (E172) el-Sayed, Abdel Fattah : Evolution de la condition de la femme en droit compare. Egypte contemporaine 31(189) Feb. 1940 : p. 127-150.
- (E173) Yallouz, Alfred : Statut personnel. (Dans son article ; chronique législative) Egypte contemporaine 19(107) Apr. 1928 : p. 407-408.
- (E174) Zaaluk, Malak : Violence in the family ; the case of wife battering in Egypt. National review of social sciences 26(1) Jan. 1989 : p. 3-33.